

## 広島県病院経営外部評価委員会（令和2年度第1回）議事要旨

- 1 日 時 令和2年7月3日（金） 午後2時から4時まで
- 2 場 所 広島県庁本館6階 県立病院課（Web開催）
- 3 出席委員 谷田委員長，大毛副委員長，木倉委員，中西委員，平谷委員，吉村委員，和田委員
- 4 議 題 令和元年度経営計画の取組状況について  
医業費用等の推移について  
次期経営計画策定に向けたスケジュール等について  
その他
- 5 担当部署 広島県病院事業局県立病院課調整グループ  
TEL（082）513-3235（ダイヤルイン）
- 6 会議の内容 事務局から、配付資料について説明が行われた後に、令和元年度経営計画の取組状況、医業費用等の推移及び次期経営計画策定に向けたスケジュール等に関する協議・質疑等が行われた。  
概要は、以下のとおりである。

### 【質疑応答及び意見】

- (1) 新規役員の選任及び令和2年度外部評価委員会の進め方について（資料1）  
委員の互選により、谷田委員が委員長に、委員長の指名により、大毛委員が副委員長に就任した。  
続いて、今年度の委員会の進め方等について、事務局から説明を行った。
- (2) 令和元年度評価表・取組内容（県立広島病院）（資料2-1）  
令和元年度評価表・取組内容（県立安芸津病院）（資料2-2）  
事務局から昨年度と今年度で自己評価が変わっている項目を中心に説明を行い、その後、質疑等を行った。  
（広島病院）  
**②脳心臓血管医療の強化**（自己評価“○”→“○”）  
委員：課題として、「脳卒中・循環器病対策基本法に沿った取組を進める必要がある。」と記載があるが、具体的にご教示いただきたい。  
委員：基本法は制定されたが、国から都道府県に対して指針（循環器病対策推進基本計画）が示されておらず、都道府県はこの指針を基に計画を策定する必要があるため、まだ、どの医療機関も具体的な検討は行っていないと思われる。  
**③成育医療の強化**（自己評価“○”→“○”）  
委員：課題として、「県内の周産期医療における、当院の役割を検討していく必要がある。」と記載があるが、何か検討が進んでいるのか。  
広島病院長：県内の出生数が急激に減少しているということで、民業圧迫とならないよう、当院ではハイリスク分娩を中心に担当していく方向で検討している。  
**④がん医療の強化**（自己評価“○”→“◎”）  
委員：広島がん高精度放射線治療センター（以下「センター」という。）への紹介患者数が増加しているが、センターとの関係について何らかの方向性があるのか。  
管理者：広島県では外来のがん患者を対象に、高度な放射線治療を行うに当たってはセンターに集約する方針としていることから、広島病院の外来のがん患者については、基本的にセンターを紹介している。

#### ⑮決算の状況（自己評価“○”→“△”）

委員：新型コロナウイルス感染症の影響はあると思うが、入院患者数も外来患者数も減少し、病床稼働率も低下している状況で、収支の悪化の理由を新型コロナウイルス感染症のみとしてはいけないと考える。

副委員長：昨年度は消費税の増税や、高額な医薬品が登場するなど、経営に直結する因子が多かったため、私としても、新型コロナウイルス感染症の影響以外で経常収支の赤字が発生した要因があればご教示いただきたい。

管理者：新型コロナウイルス感染症の影響について、明確な切り分けは難しい。

委員：細かな数字を出すことは難しいかもしれないが、例えば、第3四半期までと第4四半期を分けて、前年度比較をすれば、収支の悪化が新型コロナウイルス感染症の影響であるのか、それとも広島病院が抱える構造的な問題であるのかがある程度分かるのではないか。

委員：材料費が顕著に増加している要因をご教示いただきたい。

広島病院事務局長：臨床腫瘍科や呼吸器内科において、外来患者を含め化学療法を積極的に行っていることにより薬品費が増加していることと、循環器内科において、カテーテル治療の症例が増加していることが、診療材料費の増加につながっていると考えている。

委員長：収益の伸びに対して費用の伸びが圧倒的に多い。これは、収益に結び付いていない材料が相当含まれているということか。

広島病院事務局長：昨年度顕著であったのは、整形外科の手術件数が大きく減少したこと。しかしながら先ほども申した化学療法やカテーテル治療に係る部分は適切に収益化されていると考えている。

委員長：材料費の伸びについては、今後より分析をする必要がある。

#### その他

委員：経営に関して、新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったのか。

管理者：広島県で最初の感染者が確認されたのは3月であるが、それ以降広島病院では1病棟を開放し対応している。

#### （安芸津病院）

##### ⑨経営力の強化（自己評価“△”→“△”）

委員：地域包括ケア病床の稼働率について、安芸津地区の患者が広島病院に救急患者として入院し、その後、急性期から脱した時に安芸津病院に転院するといった県立病院間の連携は行っているのか。

管理者：数は少ないが、そのような連携は行っている。

#### その他

委員：経営に関して、新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったのか。

安芸津病院看護部長：入院患者や外来患者の制限を行わせていただいた。

#### (3) 医業費用等の推移について（資料3）

事務局から各県立病院の医業費用等の推移について説明を行い、その後、委員による質疑等を行った。

委員：広島病院について、医業収益の増減率と材料費の増減率を比較すると、利益体質にはなっていないように思える。また、委託料についても、医業収益と同程度の増減率となっており、内容について精査が必要と考える。

委員長：CVP分析を行うことで、固定費と変動費と売上の関係をもう少し分かりやすく示した方が良いと考える。また、NICU等の政策的な領域に関しては、分けることができる範囲で財務的に分けて、政策医療や高度医療においてどれほどの費用が発生しているか分かるようにしてお

く必要があると考える。

(4) 次期経営計画策定に向けたスケジュール等について（資料4）

事務局から次期経営計画策定に向けたスケジュール等について説明を行い、その後、委員による質疑等を行った。

委員長：総務省において、公立病院改革ガイドラインの改定がなされなければ、次期経営計画の策定ができないということか。

事務局：改定後のガイドラインを踏まえた計画とするのが良いと考えている。

委員長：ガイドラインの内容は大きく変わらない予定か。

管理者：大きく変わらないとは思っているが、まだ改定内容が分かっていないので、今後のスケジュール変更の可能性については、ご理解いただきたい。ただし、ガイドラインが示されないからといって、計画策定に向けた取組を何もしないということではない。

委員：広島県の保健医療計画は2018年度から2023年度までの6年間の計画で、今年度3年目となり中間評価の年であると思うが、次期経営計画についても、今後新たな要素が出てくると思うので、これらの関連する計画を踏まえて、計画期間の途中であっても、必要があれば、取組項目や目標指標の見直しを行ってほしい。

7 会議の資料名一覧

資料1 会議次第・新規役員等選任・令和2年度外部評価委員会の進め方

資料2-1 令和元年度評価表・取組内容（県立広島病院）

資料2-2 令和元年度評価表・取組内容（県立安芸津病院）

資料2-3 参考資料～各種指標の推移～

資料3 医業費用等の推移（5年間）

資料4 次期経営計画策定に向けたスケジュール等について